

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・ コロナウイルスの影響で工事の発注先の業績が落ち込み、工事が先送りとなっている状況が続いている。
- ・ 現場で感染者が出れば現場が止まってしまうというケースもあり、思ったようにいかないというのが現状。
- ・ 従業員ならび家族でコロナ感染者が続出。周りでフォローしながら業務の対策をした。
- ・ 3月以降受注も増えてくる予想をしている。
- ・ 建設資材、ガソリン等の値上げが続いている。原価・経費増化 コスト削減に注力をしていく。
- ・ メーカーからの仕入価格は待ったなしで、ファックス等で一方的に値上げの決定通知が来るが、零細企業の我々は様々な事情があり一方的値上げはできない。
- ・ 対策として顧客を増やし、全体の売上・利益あげバランスをとっている現状であるが、社員の仕事量に負担がかかっており、その対策が新たに必要となり、ただいま考案中。
- ・ 引き続き価格高騰により、民間部門の設備投資計画時当初からのコストアップで価格転嫁に苦労している。
- ・ コロナ感染症罹患者は引き続き一定数発生しているが重篤者はいない。新型コロナウイルスの予防、罹患時の対応は行政の方針に沿って行っている。
- ・ 物価高、人手不足共に深刻な状況。
- ・ 材料となる部品の納期遅延が売上に大きく影響してきている。
- ・ 1月下旬の寒波により、持ち直し感のあった業績が悪化傾向にある。昨年からの資材や設備機器の値上がりは二段階で値上げを実施するメーカーもあり、今後も予断を許さない。
- ・ 電気料金の高騰により光熱費が過去最高となったこと、全国旅行支援にお金がまわり、不要不急の大型リフォーム工事が延期になるなど、景気の良い話題がほとんどない。

◎製造業

- ・ 徐々にコロナ対策も緩和されてきているが、実際感染者数はあまり変わっていない。今後も慎重に対応していきたい。
- ・ 材料費も春頃にニッケルやモリブデンが上昇するらしく、再度価格見直しを迫られるだろう。
- ・ 新型コロナウイルス感染症については、少し落ち着いてきたように思えるが、原材料価格の高騰、電気代ガス代等の燃料費が想定以上に値上がりをしていて、採算面で悪化している。
- ・ 人件費も上がっているが、大企業の賃金見直しにはついていけない。
- ・ 原材料高騰がすべてに及んでいる中で価格転嫁がなかなかできない状況が続く。
- ・ 賃金、最低賃金の問題に悩まない中小企業はないと思う。今の雇用形態のまま賃金を引き上げることは、何とか保っているバランスを大きく崩してしまう。
- ・ 求人を出しても応募が非常に少ない。新卒・中途採用ともに給与額を上げる必要あり。
- ・ 4月の昇給は、物価高もあり人材確保と今後の採算の両面を考慮し判断が難しい。
- ・ 寒波の襲来で物流面に影響があった。1日程度ならまだ良いが、3日以上続くと売上に大きく影響が出る。

- ・国や自治体のコロナ関連政策は来年度以降、確実に減少する。受託業務の内容が昨年とは大きく変わる予想のもと、市場動向には注視していく。

◎卸売業

- ・コロナによりテナント店舗の閉店があった。
- ・消費者の買い控えが変化してきている。
- ・5月以降のコロナ第5類移行に期待する。
- ・物価高、電気料金値上げで厳しい。
- ・先月の大寒波による大雪の影響により、出荷量が減少し単価高で推移している。さらに物価高により、青果物においても買い控えの傾向がみられる。

◎小売業

- ・これから、日銀総裁が代わってどうなるか。円安が落ち着くのか。コロナが復活しないか。ウクライナ情勢がどうなるか。諸々、全く見当が付かない。

◎サービス業

- ・行動制限のない年末年始により、家庭内から新型コロナウイルス感染症に罹患する社員が多く発生した。業務の停滞を回避するため、残業や休日返上等の対策を講じたため、大幅に人件費の増加が発生した。
- ・エネルギー価格の高騰が続いており利益を圧迫しているため難しい経営となっている。
- ・電気料金がかかなり高騰していることから家庭の固定費が必然的に上がるため、食品や生活用品などの買い控えが起こっていると感じる。消費が拡大しないことには経済が動かないため、景気の回復にはかなりの時間を要すると思う。
- ・電気やガスをはじめ、2月からは食料品が5,000品目値上げとなり、寒波と共に消費マインドも相当冷え込むものと予想される。
- ・降雪の影響で終日渋滞したため需要に追いつかない状況であったが、思うほど売上は伸びなかった。依然として、燃料費他の高騰が採算ベースには乗れない状況をつくっている。
- ・県・市発行のプレミアム付きのチケットによる乗車回数が増え助かった。
- ・タクシー業界全体の状況について、日中の仕事はコロナ前に近く回復しつつあるが、1番付加価値の高い夜のお客さんは依然として回復していない。
- ・最低賃金アップや賃金を上げる社会状況となっているが、余裕がない。
- ・ここ最近の動きとして、短い期間の利用者が増えていることから、同居しているご家族の負担が多くあると考えられる。
- ・電気料金や食事の原材料の高騰で企業側の負担は増えている。
- ・職員の人手不足は深刻な課題。募集をしても若手の応募はなく、年齢の高い方、または一切問い合わせ無いのが現状。
- ・業績の大半が県外であり、コロナによる制限がないことに助かっている。
- ・コロナ感染の終息傾向に伴い、事業活動は平常に戻りつつあるが、一方、景況の見通しが不透明な中で賃上げ等を先行していかなければならず、経営判断が難しい。
- ・ウィズコロナが定着し、日本もコロナへの考え方が大きく変わろうとしているが、これまでの生活に

慣れてしまった日本国民がどれだけ以前のように活動するのは不透明。あらゆるコストが上昇し国民にゆとりのある行動がどれだけできるのか。

- ・ 昨年 2 月は銅鉄の相場が比較的良く売上が伸びていたが、今年はぐっと下がり、昨年と違い売上も伸びていない。